

## 第2学年2組 学級活動（2）学習指導案

日時：令和4年12月6日（火）第5校時

- 1 題材名 「自分も相手も気持ちよく関わるために必要なことは？」  
内容（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康保全」  
ア 自他の個性の理解と尊重，よりよい人間関係の形成

### 2 題材について

#### （1）生徒の実態

（略）

#### （2）題材設定の理由

公私共に、スマートフォンやインターネットの活用が日常的になっている中、様々な問題が起こりうることを前提に、自分の行動でどのようなことが起こるのか、投稿しようとしている画像は誰かを傷付けてしまうものではないのかなど、一歩立ち止まり考えられるような思考を養うため、この学習課題を設定した。今回は一般財団法人 LINE 未来財団の提供する、「『楽しいコミュニケーション』を考えよう！『リスクの見積り編』」を活用する。生徒達に馴染みのある LINE について取り上げた教材を使用することで、より自分事として捉えることができると考えられる。

指導にあたっては、まずグループ LINE の例を見て、今後トラブルに発展しそうなやり取りはどれか協議する。その後、どんな言動がトラブルの元になってしまうか考え意見を交流させることで、どのような状況においても、話し手と聞き手の言葉の受け取り方は異なってしまう場合があることに気付くよう指導したい。

### 3 他教科との関わり

技術科 (5・10月)	4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み ④安全に利用するための情報モラル ⑤安全に利用するための情報セキュリティ (GIGA 端末、FCS アカウントのパスワード設定)
道徳科 (10月)	主題名「安全で節度ある生活」 教材名「SNS とどう付き合う？」 価値 A-2 節度・節制 SNS の使い方について話し合うことを通して、自分の生活を振り返り、よりよく活用する方法について考えた。

4 本時の目標

SNS上で起こりうるトラブルを理解し、他者と意見を交流させることで、自分も相手もよりよいコミュニケーションをとるために必要なことを考えることができる。

5 学習過程

階	学 習 内 容 ・ 活 動	形態	時間	○指導上の留意点 ◇評価（方法）
導入	1 本時の課題を把握する。 (1)本時の授業の見通しを持つ。 ・Teamsのチャット欄で、グループトークを行う。 (2)本時の学習課題を知る。	全体	5	○Teamsのチャット機能を使うことで、生徒の興味関心を高め、メッセージや画像のやりとりが日常的であることを再認識させる。
<b>自分にとっても相手にとってもよりよいコミュニケーションをとるために必要なことは？</b>				
展開	2 グループLINEの例を見て考える。 (1)5つのグループLINEの例を見比べて、トラブルが起こりそうな順に並べる。 (2)全体で意見を共有し傾向を掴む。	班  全体	1 0	○Jamboard上で並べさせる。視覚的に傾向をとらえられるように、5つのグループLINEの例を、それぞれ「赤」「青」「緑」「黄」「黒」に色分けしておく。
	3 最もトラブルが起こりそうな例を見て考える。 (1)グループLINEの例に登場するキャラクターのうち、トラブルになりそうな投稿をしているのは誰か、選んだ理由とともにFormに回答し提出する。 (2)全体でFormの結果を確認する。	個人  全体	1 5	○Teamsのチャット欄にFormのURLを送信し、記入させる。接続ができないタブレット端末があった場合に備え、予備の端末やQRコード等も準備する。 ○メッセージの受け取り方には、一人ひとりずれがあることを意識させるために、選ぶ際は最もトラブルになりやすい投稿をしていると思うキャラクターと、2番目にトラブルになりやすいと思うキャラクターを回答させる。 ○後の展開で、思ったことを正直に発信することについて考えさせる際に提示するため、ここではキャラクターの順位のみを発表する。
	4 グループLINEの会話に参加していなかったキャラクターの気持ちを考える。 (1)最もトラブルが起こりそうなグループLINEの例の中で、会話に参加していなかったキャラクターがどのような気持ちだったか確認する。 ・面倒くさい ・時間が無かった ・写真をグループLINEに投稿するのはいけない (2)思ったことを正直に投稿してしまうことが、どのようなトラブルを生むかについて考える。	全体  班	1 0	○グループLINEに入っていないキャラクターの気持ちを考えることで、別の視点からトラブルになりやすい投稿が何かを考えさせる。 ○展開3でFormに記入した理由を提示することで、具体的な場面を想定し考えることができるようにする。  ◇よりよいコミュニケーションをとるために必要なことは何か、具体的に考えている。(観察) 【思考・判断・表現】
終末	5 本時のまとめをする。 ・トラブルにならないよう、自分と相手がよりよいコミュニケーションをとるためには、どのようなことを意識するとよいかワークシートに記入する。	個人	1 0	○ワークシートにまとめることで、本時の学習を今後の生活に生かせるよう指導していく。 ◇自己の課題解決に向けて具体的な取り組みを計画し、実践しようとしている。(ワークシート・観察) 【主体的に取り組む態度】 ○本時の学習内容について、学級・学年通信等を通して発信し、本時で意思決定した事柄を家庭でも実践していけるように呼びかける。

## 第3学年2組 学級活動（2）指導案

日時：令和4年10月4日（火）第5校時

- 1 題材名 「メディアと上手に付き合うためにできることを考えよう」  
内容（2） 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」  
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

- 2 題材について  
(1) 生徒の実態

(略)

### (2) 題材設定の理由

自分のスマホ、ネット使用について振り返り、充実した学校生活を送るためには、これから使用する上でどんなことに気をつけるとよいか考えさせたい。スマホはすぐに連絡がとれる、様々な機能があるなど便利な点がある一方、それらが長時間使用やネット上でのトラブルにつながっている。生徒も「使いすぎはよくない」「家で決められたルールは守らなくては」とは分かっているが、なかなか自分を律することができずにいる生徒もいることから、この議題を設定した。

指導にあたっては、自分のスマホ、ネット使用について振り返り考えるだけでなく、長時間使用や依存の何が問題なのかを深く考えさせたい。また、学級には、よくメディアを使う生徒、家庭でのルールを守って使用している生徒、ほとんど使わない生徒と様々な立場の生徒がいることから、それぞれの立場の考えを交流することで、メディアの特徴やルールを守って使用することのよさにも気付くことができるよう指導したい。

### 3 他教科との関わり

技術科（5月）	・ID、パスワードの重要性	・GIGA 端末のパスワードの設定	
道徳科（5月）	・「歩きスマホをどうするか」学級で話し合い活動を行った。		
社会科（7月）	・情報化	・プライバシーの権利	・個人情報保護制度

4 本時の目標

自分のメディア使用について振り返り、他者と考えを交流する活動を通して、メディアを適切に使用するにはどうしたらよいか考えることができる。

5 学習過程

階	学習内容・活動	形態	時間	○指導上の留意点 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◇評価(方法)</span>
導入	<p>1 アンケート結果を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使いすぎてしまう気持ちがわかる。</li> <li>・メッセージのやり取りがなかなか終わらない。</li> <li>・学習の妨げになっている。</li> <li>・一応家庭でのルールはあるのだけれど・・・</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">メディアと上手に付き合うためにできることを考えよう。</div>	全体	5	<p>○メディアの使用に関して、様々な課題があることをとらえさせる。</p>
展開	<p>2 具体的な場面について考え、メディアの使用について振り返る。</p> <p>場面①：勉強開始！と思ったらクラスラインが鳴り出した。たくさんの人が会話に参加していて盛り上がっているみたい。</p> <p>場面②：推しの動画を視聴。見たら寝ようと思っていたけどおすすめ動画が表示された。</p> <p>場面③：友だちとオンラインゲーム。すごく盛り上がっている。 (午前0時)</p>	個人	7	<p>○どんな時に長時間使ってしまうか想起させながら考えさせる。</p> <p>○自分ならどうすることが多いか具体的な場面を設定し振り返らせる。</p> <p>○普段使用しない生徒は、使用すると仮定して考えるよう助言する。</p> <p>○判断を【A：進んで参加・視聴（依存まっしぐら型）】【B：友だちに合わせる・おすすめされるがまま（優柔不断型）】【C：きっぱり断る・やめる（自己コントロール型）】に分類し、自分が陥りやすい型を理解させる。</p>
	<p>3 個人でメディア宣言を考える。</p>	個人	8	<p>○書くことができない生徒には、個別に声をかける。</p>
	<p>4 メディア使用においては、様々な「ずれ」があることを確認する。</p> <p>5 作成したメディア宣言の実効性について、班で交流しながら、見直す。</p>	個人 班	5 15	<p>○「遅い時間とは何時？」「返信を待てる時間は？」などの問いに答えさせ、ずれを実感させる。</p> <p>○作成した宣言は本当に実現可能か問いかけ、できない場面を想起させて対策を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇メディアと上手に付き合うために、何ができるか自分のこれまでの生活を振り返りながら、具体的に考えている。（発言・ワークシート）</p> <p style="text-align: center;"><b>【思考・判断・表現】</b></p> </div>
終末	<p>6 メディアと上手に付き合うために何ができるのか、自分のこれまでの生活を振り返りながら、具体的に考える。</p>	個人	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◇自己の課題の解決に向けて具体的な取り組みを計画し、実践しようとしている。（発言・ワークシート）</p> <p style="text-align: center;"><b>【主体的態度】</b></p> </div> <p>○授業内容はHPや学級通信で家庭に知らせ、生徒の取り組みを応援していただくようつなげる。</p>